

二日にわたる東京研修。今振り返ってみると、大変ではありましたが、あっという間で、とても濃い内容のものだったと思います。

最大の企画は企業大学訪問だと思っています。実は、私達はなかなか企業大学訪問での訪問先が決まらず、決まってからも当日まで上手い質問を作ることができず、本当に二時間近くの訪問をやりきれぬのかという不安でいっぱいでした。朝も担当の先生に資料を頂いて、行きの新幹線でも、何故もっと真面目に考えなかったんだ、と自分を責めながらも質問を考えようとしていました。準備は早めのうちしておくべきだと改めて反省しました。

しかし、実際に一橋大学法科大学院 青木孝之教授のもとへ向かうと、教授は笑顔で私達を研究室に迎えてくださいました。私は大学の教授の研究室を見るのは初めてでしたが、研究室は私達が思い描くイメージ通りで、壁の本棚にはたくさんの法に関する本や資料が並んでいました。質問を始める前に、一橋大学のクリアファイルと名刺、そしてご親切にお水まで頂きました。名刺は国際的な活動をする時のためとのことで、裏は英語で表記されていました。

さて、メインにも関わらず不安だった質問タイムです。最初の方の質問は、軽く教授について何うような質問をしようか決めていました。しかし、教授は一つの質問に大して沢山お話を広げてくださって、とても質問を続けやすかったです。教授の経歴や、裁判官時代のお話をしてくださいました。印象に残ったお話は、「裁判官は世間知らず」というイメージについてのものです。決して世間知らずなのではなく、軽卒に新しく人との関わりを持つと、暴力団など、社会的に問題のある人と知らず知らずのうちに仲良くなってしまい、自らがスキャンダルになってしまうこともある。そういった事を防ぐために、という側面もあるそうです。裁判所関係者がよく出入りしていた飲み屋が、訴訟案件になったときには、皆そこにはぱったり行かなくなってしまう事もあったとのこと。その他にもとてもためになるお話をしてくださいました。法学部に進学する前に法学に触れる方法や、大学卒業後にどのようにして法曹関係者になるか、司法試験に合格して資格を得るメリットなど、本当に参考になるものばかりでした。しっかり心に留めておきたいと思います。しかし、いくつか失敗した部分もないわけではありません。私の考えた質問は聞く時間がなく聞けませんでしたし、始めには訪問の趣旨説明、終わりには軽い感想を、と考えていたものも教授のペースに流されてしまってしっかりお話することが出来ませんでした。これらの点を反省してまたどこかで生かしたいと思います。その他の場面でも色々なことを学びました。

ディレクトフォース、笹川平和財団夏季プログラムでの、安達公一様、太田淳一様、村上悠平様との質疑応答の際には、国際的な活動をされている方々ともあって、海外での活

動について沢山のお話を聞くことが出来ました。生徒、学生として「英語ができる」だけでは、外国の方々との交流にはたくさんの苦労があるそうです。その中で安達様は、英語以外にプラスアルファで他の言語を学ぶべきだということ、異文化コミュニケーションには、自分と相手の文化の違いを理解して、それを尊敬し、自分の意見や考えをしっかりと述べるのが大切だとおっしゃいました。これは異文化間のコミュニケーション以外にもあてはまるそうです。これは近藤様が講演でおっしゃっていた、色々な人、その考えや価値観に触れてみる、といったことにも通ずる所があると感じました。様々な人々とのコミュニケーションには、これをしっかりと心に留めて望みたいと思いました。三人の方からこのようなお話を伺って、私も海外での留学やホームステイを経験してみたいと思いました。いつか絶対に実行させたいです。

OBOG 座談会では、主に現在の勉強法や大学生活に関して伺いました。どの方々も気さくに個々の質問に答えてくださって、とても楽しい会になりました。

東京大学での個別相談会では、勉強方法や試験のことを伺いました。試験について詳しく伺うことが出来て、少し気が楽になったような気がしました。勉強方法については、法学部出身の平松さんと、ディレクトフォース、笹川平和財団夏季プログラムでの太田様のものが近いように感じられました。英語の単語など暗記科目に関わるものですが、それは朝の通学、通勤などの移動時間を使って勉強する、というものでした。通学時間が少し長い私にとってはとても参考になりました。

これら三つの活動は、誰かに質問をして、それに答えてもらって話を進める、という形式の面でどこか似ている所があったと感じました。質問する機会は東京大学での模擬ゼミにもありましたが、どの活動でも共通の問題が浮き彫りになったと思います。それは、私はその場で質問を考えられない、ということです。ほかの人からの質問が途切れたり、私に質問が振られたりするとなかなか質問が浮かんでこないのです。聞きたいことがあるはずなのに、それを聞き出すための質問が浮かばないのはとても悲しいことでした。特に法学部の教授による模擬ゼミで、自分の興味のある分野なのに質問が浮かばなかったのは悔しかったです。自分が知りたいことや聞いておきたいこと、お話のなかで気になったことなどを整理して、それらを聞き出せるような質問を考えていきたいと強く思いました。それがこの研修の中で一番強く感じられたことでした。

今回の研修で考えたこと、感じたこと、そして学んだことは他にもたくさんあります。本当に良い経験が出来たと思います。新しい人との関わりを持つこともできました。自分の進路について色々な考え方、進路のを見つけ方を聞いて、安心した点もあれば、頑張らないうち、と思う点もありました。現時点で私は法学部志望ではありますが、他に興味のある分野もあります。そこをしっかりと調べて、より良い選択をしていきたいです。反省点はしっかりと改善していきたいです。

最後に楽しい思い出話を、忘れないうちにいくつか記録しておきます。

何度か経験しましたが、やっぱり満員電車はつらいです。特に荷物の多い私なんかは鞆が迷惑になりますから、とても申し訳ない気持ちでした。電車といえば、高所恐怖症なのもあってか、ホームと車両の隙間が毎度毎度恐ろしくてなりませんでした。

企業大学訪問で、私達とは違って訪問時間が限られている人達もいて、残った時間で東京を満喫していたのは、二時間以上話し込んで移動時間も一時間程度とギリギリの私たちにとっては羨ましかったです。とは言え何処に行くかもよく分からないので、それはまた別として観光しに来たいと思います。また、大学生の方々から楽しそうな大学生活を伺って、キャンパスの近くにバイトしながら一人暮らしなんてしてみたい！と切実に思いました。

ホテルもとっても快適でした。四人部屋ともあって広々としていましたし、綺麗でした。お風呂にジャグジーがついてると大興奮していた子がいたのも忘れられません。食事は席をとるのに苦労しましたが、その分色々な人とお話できて嬉しかったです。

出発前日まで、私の気分は将来への不安と昨日までの夏休みの後悔とでとてつもなくネガティブでした。しかしこの研修でまた心が晴れました。企画してくださった先生方、ディレクトフォース、笹川平和財団の皆さん、青木教授、OBOGの方々、東京大学 Fairwindの皆さん、本当にありがとうございました！